

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年2月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100831
法人名	社会福祉法人 寿康会
事業所名	寿康園グループホーム飯山
所在地	鹿児島県鹿児島市本名町2196番地1 (電話) 099-293-7008
自己評価作成日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿児島市郊外の緑豊かな場所に平成24年に設立された施設です。建物については鹿児島県の木材を活用し屋根瓦となっており、鹿児島市が実施している「第2回鹿児島市景観まちづくり賞」に於いて建築部門で表彰を受けて新聞にも掲載されています。施設見学に来られる方々とも建物を観られてとても落ち着いた雰囲気です。施設見学の他にも良いと評価もいただいています。小規模特養と併設されており、建物内には託児所もあり、子育て世代の職員も安心して働いて頂いています。小規模特養の前には芝生のグランドゴルフ場と畑が整備されており、グランドゴルフ場は地域にも開放して地域住民にも活用されています。畑では季節の野菜が育ち、旬の野菜を献立にも取り入れています。寿康会には複数の事業所があり、利用者の状態に応じて対応し、各関係機関とも連携しながら安心した生活が出来る様に努めています。地域との関係性を大事にしており、部落行事(鬼火炊き、運動会、清掃等)も活発に参加しています。ケアへの取り組みは寿康会の理念を基にグループホーム飯山運営理念を定期的に職員とも復唱して自立支援と家庭的に雰囲気を感ずるため、季節的な行事も職員で話し合い計画させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○住宅街の中に自然に溶け込んだ当ホームは、一見、宿泊施設にも似かよった佇まいの和風木造建築の建造物である。玄関を分けて小規模特別養護老人ホームが併設され、さらにグループホームの手前に託児所のスペースがある。玄関エントランスは、地域の方々やボランティアとの交流活動などの催事や消防訓練に活用されている。近隣には、特別養護老人ホームを始めとする関連の介護サービス事業所があり法人との連携があり、毎年開催される法人主催の「夏祭り」には、昨年も850名の来場者があるなど恒例のイベントになっている。イベントでは、地域交流スペースを開放しグループホームでの暮らしぶりや活動内容を写真入りで紹介・展示したり介護相談を実施している。

○職員は、地域の清掃活動、運動会、六月灯、十五夜、鬼火焚きなどに利用者とともに参加して地域住民と交流活動が盛んである。また、菜園の草取りには年2回、家族や地域の協力を頂いたり、職員が手作りちまきを地域に配布したことでお返しがあったりと地域との関係性は良好で防災の面でも互いの課題を話し合うなど協力体制を築いている。

○昼夜想定総合防災訓練は、分遣隊の指導による放水、消火訓練、AED(玄関に設置)訓練を地域住民、関係事業所、協力医療機関などと実施している。

『かすみユニット』

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	家族やスタッフの目が届く所に運営理念を掲示している。職員会議等で運営規程、理念については内部研修をしている。	スローライフを意識した理念は、朝礼時に唱和され、共有スペースに掲示し、ホームページにも紹介している。職員は、内部研修をおこない毎年目標を決め理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	運営推進会議を活用して取り組んでおり、地域の清掃活動に職員も参加し、運動会、十五夜等の交流を図っている。避難訓練も地域の方も参加頂き、小学校、中学校とのボランティアも受け入れている。	年間の行事計画に清掃活動や鬼火焚きなどの地域行事への参加を位置づけ参加している。地域の方がグラウンドの草払いを手伝ってくださったり、野菜の差し入れがある。また、災害時の地域の課題を事業所とともに話し合い検討するなど協力体制が構築されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人で地域支援に取り組んでおり、近隣の関係事業所ともネットワーク作りをしている。高齢者サロン等へ出向き認知症への理解を深める活動をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で実地指導等の結果報告を行っている。それ以外の議題についても改善対応策も検討、報告している。また会議での地域会議等にも積極的に参加している。評価は家族へ報告している。	会議では、地域の課題などについても浮き彫りにし参加メンバーから相互に意見交換をおこないながら改善策や対応策を検討している。また、外部評価結果、評価で明らかになった課題について会議で報告し、質問、意見、要望を受けサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鹿児島市の各課(介護保険課、高齢者福祉、長寿支援、指導監査等)に相談、連携をしている。包括支援センター所長にも運営推進会議に参加を頂いている。	市担当者から研修の案内をもらい、職員は積極的に参加している。また、生活保護担当者へ報告したり電話で相談している。また、年1回介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止改善計画書を作成し、定期的に自主研修に取り組んでいる。身体拘束の意味、意義等を勉強している。	職員会議の中で内部研修を実施し身体拘束の弊害などについて学んでいる。ふいに外出される方があり、一緒に畑作業をしたり、戸外を散歩するなどして気持ちの安定を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について定期的に職員会議等で検討、勉強会を開催している虐待の内容(身体的、経済的、精神的、放棄、放任等)なぜ、起こるのかを勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者、ご家族で必要なケースについてパンフレットを渡したり、相談支援を随時行っている。権利擁護事業、成年後見人等についても定期的に自主研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間を頂いて重要事項、契約書等の説明をしている。事前連絡、見学についても相談に対応しやすい様に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価アンケートも評価の一つではあるが、玄関入口にいつでも閲覧出来る様にしている。家族会等でもアンケートを実施している。	年2回家族会を開催し家族向けのアンケート調査を実施している。家族には、消防訓練に参加してもらったり、推進会議の報告やホームの実情を認識していただき意見、要望が出しやすいよう雰囲気作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会議等で話し合ったり、その都度管理者が対応し、意見の引き出しをしている。また人事考課等の面接時、個々の希望、要望を聞いている。	管理者は職員と年2回面談し、意見や提案を聞く機会を設けている。人事考課システムがあるが、フィードバックする体制がなく、マニュアルを整備した。昨年は、メンタルチェックを実施し職員のメンタルケアや職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回スタッフへ人事考課面談を行い、その中で各自の目標や達成度等の聞き取りをしている。メンタルケアにも力を入れている。職場環境整備にも努めている。27年度はメンタルチェック受検を実施した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人総務が中心となり各事業所に人選を実施している。新人に対するマニュアルもあり、採用当初の対応も充実している。研修等の職員全員参加する事。介護福祉士等の免許の取得できる体制も出来ている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>理事長が他職種が集まる研修会懇談会を開催しており、法人全体研修も実施している。グループホーム職員同士の交流もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の申込書、関係事業所からの情報提供を基にアセスメントを行い、スタッフへ情報共有している。状態変化についても注意しケアプランの意向にを反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意思と家族の意向の違いや、入居についての心配事が不安など出来るだけ聞き取り、入居前に十分相談出来る様に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設で生活が可能か不可能かをしっかりと見極める事。出来るだけ在宅でお困りのご家族には対しては受け入れは拒まない考えで対応するが、現状施設での対応はスタッフとも十分に協議する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には本人は出来ることは本人にして頂き、過度の介護にならないようにしている。野菜の作り方、干し柿、干し大根等の作り方など聞き、行事を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居の段階でご家族には協力を 行頂く事は説明している。面会 時の記録、事故、ヒヤリ等は必 ずご家族には連絡し、内容を伝 えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染 みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	来園者には本人との関係をお聞 きしたり、また来園をお願いし たりしている。本人が望む事、 行きつけのお店散髪屋さん等 には出来るだけお連れするよう にしている。	家族の協力をもらい本人の行きつけ の理美容院の利用継続を支援して いる。友人や知人の面会が本人と ゆっくりできるよう配慮している。 正月は外泊される方もあり、家 族や地域との関係性が途切れる ことがないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人 ひとりが孤立せずに利用者同士 が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	利用者同士の関係性や特徴など を十分に考慮してそれぞれに対 応している。食事位置等、個人 と集団の関係性にも配慮してい る。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了して も、これまでの関係性を大切に しながら、必要に応じて本人・ 家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	退居後は利用者の状態、状況に ついては他施設へ紹介したりし ている。同一法人の事業所に移 られる方には時々会いに行つた り、入院中の方の面会に行つた りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人、家族、関係者からどのように暮らしてきたが、生活歴を聞いている。アセスメントして介護計画に反映している。日々の時間の中で行こうを取組み職員会議等で検討している。	職員は、生活歴を踏まえ本人に望む暮らしを聞くようにしている。本人の思いや意向の把握のため、各ユニットで話し合い、何事も本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや関係機関から情報提供やアセスメント時、本人ご家族から聞き取り情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方については個々に対応している。バイタルチェック表を工夫している。アセスメントを取るうえで全職員にも話しあいをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの内容については少なくとも半年に1回変更している。身体変化のあった方は状況に応じたプラン変更している。(リハビリ、薬の変更、他科受診等)	ケース会議を開催しアセスメント結果を話し合い、6ヶ月に1回見直しを実施している。また、毎月モニタリングを実施している。職員は、家族と面談の折、課題を踏まえ面接時に説明している。介護計画書は、本人や家族の思いや意向を踏まえた現状に即した計画書を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過は出勤職員が1人に対して2名以上の記録が残るようにしている。利用者の言葉をそのまま記録してその中からヒントを得て介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて支援している。(訪問理容、訪問歯科、訪問リハビリ等)介護保険サービスだけではなく、介護保険外でも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防へは救急ボランティア登録をしている。他にも民生委員の方の協力や学校関係者に協力を頂き、行事に参加したり、ボランティアの受け入れをお互いに協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医が良い場合はその担当医として、私どもの協力医療機関を望まれる方は対応可能。専門医の受診が主治医へ指示があった場合、家族へ送迎をお願いしたりしている。	協力医療機関との医療連携が図られ、職員が受診を支援している。歯科や皮膚科などの他科受診は、家族と職員も同伴し支援している。夜間の協力体制は、有床医療機関との連携が図れている。また、訪問看護ステーションとのオンコール体制が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当園は看護師配置はないが、医療連携体制にて週1回訪問看護が入っている。体調管理について看護師へ情報を伝え、病院へ受診、治療の指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合には情報提供書を作成して医療機関担当者と連携をしている。認知症の為、病院が少しでも早い退院の要請があれば病院と連携して対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については医療連携体制加算をとっており、ご家族からご希望があれば体制を整えている。訪看との連携をとり、対応していく。入居時にご家族には終末期の対応を聞いている。	看取りに関する指針があり、契約時に説明している。医療連携を図る体制があり、訪問看護ステーションとの委託契約、医療機関、利用者、家族、関係機関と段階ごとに話し合い看取りについても柔軟に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止マニュアルの確認、連絡方法等を指示、ヒヤリ事故後はな話し合いを行い、事故報告の職員の共有をしている。応急手当、心配蘇生法等の訓練も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火管理者を中心に近隣住民と合同での消防訓練を実施している・近郊の施設、病院へも声掛けして参加頂いている。消防署主催の防災ネットワークにも防火管理者が参加している。GH飯山として単独で避難訓練を実施している。</p>	<p>地域とは合同で消防訓練を実施するなど地域との連携体制が図れている。ホーム隣の竹山の崩落の心配があり地域との連携を強化している。職員は、抜き打ちで訓練を実施、防火管理者対象に避難訓練をしている。消防署の指導もあり、2階からの避難経路を検討しているところである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	玄関に個人情報保護の方針掲示し、記録等は外部の方の目に触れない様に鍵のある棚に保管している。自主研修に年間計画に取り組んでいる。職員会議等で定期的に報告する。	居室は開扉しているが、のれんを掛けるなどプライバシーに配慮している。個人情報保護、権利擁護などの研修をおこない一人一人の人格や誇りを傷つけないよう配慮している。呼びかけは、さんづけを徹底しておりスピーチロックについても留意してケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを伝えられない利用者は言葉だけではなく、仕草や表情を読み取り、スタッフには気付き、気配りを大切にするように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事もお茶、体操の等時間を決めているが、一人一人の体調に合わせて実施している。買い物等の希望があれば随時同行して希望に沿い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	近隣のお店に買い物へ出かけたり、化粧道具等の購入も支援している。訪問理容、なじみの理容室に行かれるように家族に協力頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に季節ごとの献立を考えてもらったり、下ごしらえ、準備、下膳の協力を頂いている。主菜は決めているが副菜は柔軟に対応している。テーブルの拭き掃除もお願いしている。	調理師の資格を持った職員が利用者のリクエストを聞き献立を作成している。能力に応じて手伝いがあり、包丁を使い野菜を刻んでももらったり、料理の下ごしらえ、テーブル拭きなどをしてもらっている。誕生日は、本人の好きな料理、手作りのケーキ、花見などでは弁当を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、摂取量については記録している。食事の少ない方は高濃度カロリー食を提供する体制もあり、法人管理栄養士に助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は義歯洗浄剤を使用して取り組んでいる。うがいの為、イソジン、お茶等も準備している。歯科受診の指示をうけ、口腔清拭にも取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。自立排尿を大切にしている。できない方にはPWCなども活用している。リハビリパンツを安易に使用する事での弊害を説明している。	トイレで排泄ができるよう昼夜誘導を実施、ポータブルトイレにて夜間の排泄の自立を図っている方もある。職員は、吸収率のよい尿とりパットを使用するよう工夫したり、定時の誘導を実施することによりおむつの使用量が減らせるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便が出来る様に食物繊維の多い物を提供している。牛乳、運動等で自然排便が有る様にしているが、便秘が続く場合は主治医に相談し受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	大体の曜日設定あり。順番は全員が均等になる様にしている。体調確認のバイタルチェックしてから入浴していただく。心臓等疾患のある場合は入浴時間については考慮する。	原則、週2～3回程度を目安に本人の希望があればいつでも入浴ができるよう配慮している。特に、乾燥の時期は保湿クリームを塗布したり、入浴剤、よもぎ湯、ゆず、みかん湯などを楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はほぼ決めていますが、眠くなった時点で居室へ移動していただく。昼夜逆転にならない様注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬表を綴り、いつでもすぐに確認出来る様にしている。飲み合わせ、飲み込みしにくい薬等も先生に相談しも処方して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割や楽しみごとを大事にしており、個別と集団のバランスを注意している。特技や生活歴から発揮できる場を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが、外出、散歩、畑の様子等行い季節感を感じて頂いている。買い物でも出来るだけお連れしている。	天候の良い日は、戸外の散策や畑の様子を見に行ったり、ごみ捨てに行くなどしている。また、職員と買い物に行く方がおられたり、正月前は職員が墓参りに行く方の対応をしている。花見や夏祭り、地域の運動会、グランドゴルフ大会などの地域や法人の行事も多く、十五夜、小・中学校の運動会などにも招待され出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の望んだ買い物と一緒に買い物に出かける支払いは出来るだけ本人にして頂くようにしている。お金を持たないと不安な方については家族と話し合い金額を取り決めている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を自己管理している方もいる。家族と連絡を取りたい希望の方には連絡する。また家族よりある程度制限を希望する方にはそのように対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節画のある花々や飾り物がある。車いすが自由に移動できるスペースも確保している。トイレ使用後には職員が確認し、次利用される方が不快に思わないようにしている。消臭剤も利用している。</p>	<p>リビングには、生花が活けてあり、フロアは広く天井も高く採光もあり、掃除も行き届いて清潔感がある。また、ソファが置いてあり、テレビを観たりのんびりくつろぎ思い思いに過ごせる空間である。空気清浄機は設置しているが、職員はこまめな換気も心掛けている。廊下も広く手すりが設置しており安全な移動に配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同部分については職員や利用者の気配り出来る様に椅子テーブル高さの調整、隣同士の話がしやすい様にしている。食事時は基本テレビは消している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については本人が生活しやすいように相談して、本人の状態に合わせて居室作りをしている。なじみの物を持ち込んで問題のない方には持ってきて頂く。	テレビや冷蔵庫、ラジオ、ラジカセなど馴染みの物を持ち込み個性あふれる居室である。ほとんどの居室にのれんが掛けてあり開扉している。携帯電話を自己管理している利用者もおられ、居室で本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にネームプレートがあるが必要に応じて大きく表示している。引き戸なので押したり、引いたり動作の間違いない様にしている。		

V アウトカム項目『かすみユニット』

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない